

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2017.4

Vol. 54

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.54

●平成29年4月発行

●編集・発行／総合東京病院

〒165-0022 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

特集

未病のすゝめ



消化器内科 科長
菅原 崇

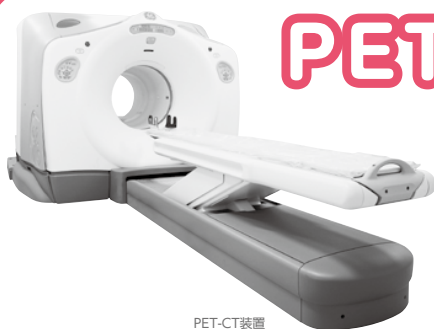
『無病』とは病気に罹患して（かかって）いないことを指します。『息災』とは、もともとは仏教用語で、仏の力によって、災（わざわ）いが息（やめる）ことを意味します。息という字は「自（鼻の形）」と「心（むね）」からなり「呼吸する」ことを表し、意味が転じ「やすむ」「やめる」「ふせぐ」といった意味を持ち、『無病息災』とは、病をすることなく健康壮健なさまをさします。

一方、『一病息災』という言葉があります。『一病』とは、致命的ではない持病のある方は、持病があるがゆえに養生（体調に注意）するので、それ以上

の大病を患わずに『息災』に過ごせるという意味です。疫学では、日本人のおよそ3分の2が生活習慣病に由来した死因で亡くなっています。自覚症状がなくても生活習慣病がある方は定期的な外来受診をすることで『一病息災』に至る道のりとなるのでしょうか。

また、東洋医学には『未病』という考え方があります。江戸時代の森本玄閑は、『難経本義 大紗』で「未病と無病はやや異なる。未病とは、まさに病の兆し有りて未だ発せざる者なり。無病とは平常無病の者なり」と記しています。

『未病』とは発病の準備状態で、感染症でいうならば「保菌」（菌がくっついていて症状が認められない状態）で、発病は「感染」（菌が炎症反応を起こし、病的となった状態）と考えるとわかりやすいかもしれません。現代の医学に



PET-CT装置

PET-CTがんどック予約受付中

【PET-CTがんどック】 ※総合東京病院の来院申込者

通常料金 108,000円 ⇨ 優待料金 **86,400円(税込)**

※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学課へ

☎03-3387-5462

受付時間／月～土（日・祝除く）
AM 9:00 ~ PM 5:00

特集 未病のすゝめ

おいても発病と定めるには難しく曖昧な期間を、『未病』と表現するとすれば、古代の『未病』はとても範囲が広く重度の病気以外は認識されていなかった可能性もあります。感染症に至っては病気とは捉えられずに、仏罰や怨念の仕業などと人智の及ばない現象とされていました。

たとえば、ヘリコバクター・ピロリ菌感染は胃がんの『未病』といえます。ピロリ菌が持続感染すると、胃粘膜は炎症を生じて、萎縮（粘膜の老化）を起こします。ピロリ菌感染と萎縮の広がりや胃がん発生率に相関があることから、萎縮は『一病』に相当し、上部消化管内視鏡（胃カメラ）では慢性胃炎、ピロリ菌感染の有無とともに萎縮の広がりを診断するようになりました。ピロリ菌感染の有無は胃がんのABC検診でも可能です。当科では、ピロリ菌の除菌治療に積極的に取り組んでいますので、他院にて一次・二次除菌に失敗してしまった方や除菌治療後に除菌が成功したのか判断としていない方はご相談ください。ピロリ菌の除菌後も胃に粘膜萎縮があれば経過観察が必要となります。当院の内視鏡検査は、苦痛を軽減するための工夫として、経鼻内視鏡はもちろん、鎮静・鎮痛剤の使用を含めての検討が可能です。いままで内視鏡検査で苦しい思いをした方もご相談いただけたらと思います。萎縮『一病』については、京都分類（萎縮性胃炎の新しい分類法）による点数化をして、その時点での胃がんリスク判定をして定期検査の頻度を個別に決定しています。

一方、下部消化管においては、年間13万人が大腸癌になり、約5万人が死亡していると推計されています。大腸癌は、その前駆病変『一病』と考えられている腺腫性ポリープ（良性腫瘍）を内視鏡的に切除することが重要です。National Polyp Study (NPS) Groupからの報告では、内視鏡治療によって、大腸がん発症の危険率が約80%抑制され、死亡率も約50%抑制されました。大腸がん検診の便潜血検査陽性は、『未病』といえます。大腸内視鏡検査で腺腫性ポリープの有無を調べましょう。

また、従来検診採血だけでは、近年明らかになった病態の診断に必ずしも適していないことがあります。脂質を例にしますと、脂質代謝が臓器機能障害と関連することが明らかになってきました。従来からリスク評価に活用されている総コレステロール、LDL、HDLだけでは、[脂肪肝（NAFLD）『未病』→非アルコール性脂肪肝炎（NASH）『一病』→肝硬変→肝がん]、[早期慢性膵炎]といった病態の診断にはあまり寄与しません。お酒が過ぎる方や、肥満傾向になっている方では、一般的な採血検査に画像検査や特殊検査を追加しないと『未病息災』に過ごせなくなってしまうかもしれませんね。

消化器内科では、『未病』から発病を予防し、早期発見で『一病』にとどめることを目標に積極的な検査を行っています。是非、一度ご相談ください。